

# 鵜生池 (うのいけ)

## 位置図



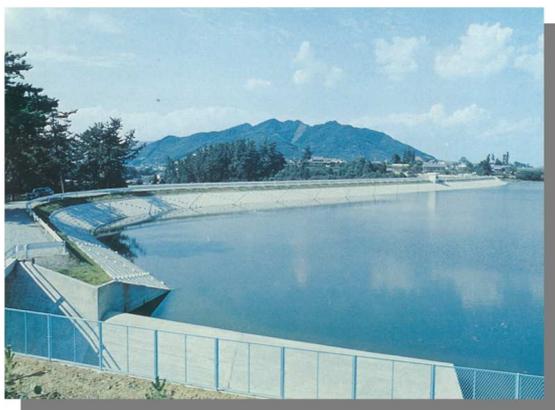
## 諸元

貯水量	337	千m <sup>3</sup>
満水面積	8.5	ha
受益面積	71	ha
堤高	15.1	m
堤長	236	m

鵜生池は高松市と綾川町の市町境に位置するため池で、琴電岡本駅の約1 km 南にあります。寛永3年(1626年)の大干ばつを機に、畑田・福家地域の農家の人たちが相談して、当時、谷間で葦が一面に繁茂し鵜が生息していた湿地に築造されたことから、「鵜生池」と名付けられたといわれています。

水に厳しい土地柄であり、文久3年(1863年)の大干ばつの際には、水争いが起こり、大庄屋が仲介に入り5か条にわたる「鵜生池用水取方規定」が作られ、ユル尻に分水石、池の中に分量石を設置したとの記録が残っており、当時の逼迫した水事情を鑑みることができます。

その後、幾多の改修を経て、昭和48年からは県営大規模老朽ため池等整備事業で全面改修が行われ、昭和51年に完成しました。堤防の東端には、その記念碑が建立され、前川元知事が題した「恵泉万代不涸」が刻まれています。また池の南渚には香川用水の幹線が整備され、導水により永年の懸案であった用水不足解消の一助となっています。



鵜生池



池の東端にある記念碑